

『鬼が笑う？図書館からのお年玉！』

豆知識

『来年の事を言えば鬼が笑う』とは、先のことをあれこれ言ってみても、来年はどうかかわからないから意味がない。予測できない未来のことを言うと、鬼がバカにして笑う…ということわざ。

明けましておめでとうございます。今年も皆さまと本の良き出会いを精一杯お手伝いさせていただきます。さて、え～新年早々何ですが、実は…数年前から図書館はこそと『お年玉』を出していました。ささやか～な『お年玉』なので、広報等でお知らせはしていませんでした。誠に申し訳ございません。年明けに来館して下さった方が、カウンターで「おや？じゃあ1つもらおうか？」というくらいのモノ。それは雑誌付録の『カレンダー』や『スケジュール帳』『家計簿』です。出版社が1年間のご愛顧を願ってちょっぴり頑張った付録なので喜ばれます。ひと家族1点にしていますが、数が少ないので数日でなくなります。このお年玉目当てに年明け早々、いざ図書館へ！ということはないでしょうが、今後も毎年配布していく予定ですので、遅ればせながらこの場を借りて皆さまへお知らせをいたします。この記事が読まれるころは、もう今年の方は終わっているかもしれませんが、図書館からの『お年玉』のこと、良かったら来年まで覚えていてくださいねー！そ・し・て！今年『お年玉第2弾！』として、5冊以上借りられた方（ひとり10冊まで借りられます）に「ビタミンC、E、食物繊維たっぷりのアレ」を1個プレゼントしています。こちらも用意した分が無くなり次第終了になります。もらえた方はラッキーですねー！運試しに図書館に足を運んでみませんか？

本当に鬼に大笑いされそうですが、たくさん収穫できれば来年も『お年玉 第2弾！』計画します！「アレ」とは、外は茶色、中は緑のキウイフルーツです。風邪予防に◎！

●「おはなし会」毎月第2土曜日 10:30～11:00

1月の担当グループは「チームそらまめくん」のみなさんでした。2月は「スター」（2/12予定）のみなさんです。手あそびや紙芝居など、おうちでの読み聞かせとはちょっぴり違う「おはなし会」を楽しみに来てください。来てくれたお友だちにはささやかなプレゼントも♪キラキラシールも選んで貼ってね！



▲おはなし会で読んだ本 12月のおはなし会参加者

●「蔵書点検のため休館いたします」

昨年度は、新型コロナウイルスによる臨時休館が多かったため、開館日を増やすために蔵書点検をしませんでした。今年度は2月末～3月始め頃の5日間を点検日に予定しています。詳しい日程は2月号の広報等でお知らせいたします。図書館の本がきちんと整理、管理されているかを点検するための大切な作業です。ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

お知らせ

新刊・新着図書案内 ～新しい1年が豊かで幸せでありますように！皆さんを応援する本が待っています！～

●児童書・コミック

ひよこはにげます 五味太郎
ノラネコぐんだんラーメンやさん 工藤ノリコ
らいおんレストラン やまぐちりりこ
せんろはつづくにほんいっしゅう 鈴木まもる
おいものモーさん 岡田よしとか
あんなにあんなに ヨシタケシンスケ
だれかのプレゼント 谷口友則
作るのが楽しくなるクラフトBOOK 折り紙も工作も！ いしかわまりこ
仮面ライダー完全超百科 その他多数

●一般図書

吾妻おもかげ 梶よう子
ミチクサ先生（上・下） 伊集院静
旅屋おかし 原田マハ
二人の嘘 一栗ライオン
失われた岬 篠田節子
フェイクフィクション 菅田哲也
倒産続きの彼女 新川帆立
星を掬う 町田さくら
むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。 青柳碧人
ポーターライト 今野敏

残照の頂（山女日記 続） 湊かなえ
レフトハンド・ブラザーフード（上・下） 知念美希人
もしあと1年で人生が終わるとしたら？ 小澤竹俊
ヤマザキマリの人生談義 ヤマザキマリ
向田邦子ベスト・エッセイ 向田和子・編
むき出し 兼近大樹
私が見た未来 たつき諒
過疎再生 奇跡を起こすまちづくり 松場登美
毎日イキイキ！解いて動いて脳活生活 篠原菊紀・監修
夜間頻尿朝までぐっすり！自宅ケアBOOK 主婦と生活社・編
更年期障害だと思ったら重病だった話 村井理子
カリスマ保育士てい先生の子育てで困ったら、これやってみ！ てい先生
子どもがパクパク食べる！魔法のおうちごはん あおい
直見工房 財前さんちの春夏秋冬のごはんと暮らし 財前直見
週末猟師 ジビエ・地域貢献・起業 原田祐介
タネ屋がこっそり教える野菜づくりの極意 市川啓一郎
年金生活者定年退職者のためのかんたん確定申告
美しき小さな雑草の花図鑑 多田多恵子
発酵来福レシピ おのみさ
大谷翔平常識を超えた100の秘密
60代からの今すぐ見たい日本の絶景 その他多数

ふるさとの文化財探訪 第93回

カッコウと民話

文化財調査員 阿部 秀幸

九重町の鳥はカッコウであるところ存じの方は多いと思えます。町民憲章ではカッコウを「緑の鳴き声は静寂で、情感を漂わせ、無垢の聖域を連想させる。それだけで活気を誘う予感を持ち牧歌的で、文学的にも親しみを持たれており、九重の草原に最も適した鳥である」と紹介されています。カッコウにはホオジロやモズといった他の鳥の巣に自分の卵を産み、その巣の親鳥に自分のヒナを育てさせる「托卵」という習性があります。カッコウの卵は仮親の卵よりも早く孵化し、仮親の卵をすべて捨ててしまいます。そして仮親が運んで来るエサを独占して成長するので、こう聞くとカッコウはずいぶんひどい鳥だと思われるかもしれません。なぜ托卵をするのでしょうか。カッコウは体温を一定に保つ能力が低く、これが托卵の理由だとい説があります。多くの鳥は親が卵をあたためてヒナをかえしますが、体温変動が大きいカッコウは、うまく卵をあたためられず、他の鳥に卵を託したほうがヒナが育ちやすいのではないかと推測されています。托卵はされる側にとってはほとんどない話ですが、カッコウはカッコウで、生まれた瞬間から親子が離れ離れになるといふ悲しい宿命を背負っています。

カッコウが九重町の鳥に指定された理由の一つに「九重町に古くから伝わるカッコウの民話がある」ということもあったようです。その民話とはカッコウは継母にいじめられて鳥になった娘の姿であるというものです。大まかに紹介しましょう。「実子と継子の姉妹がそれぞれ背負いきれないほどの山菜を収穫して家についた。母は実子にはねぎらいの言葉とご褒美を与える一方、継子には働きが足りないといふ厳しい言葉を吐いた。継子はたまらず外へ飛び出した。実母の優しい笑顔を思い出し、「かっぱ、かっぱ」と母を呼んで空へ舞い上がった。春の野山を「カッコウ、カッコウ」と鳴きながら飛んでいるのは、この娘の化身であるという」先人たちはカッコウをひどい鳥ではなく、悲しい鳥だと見ていたという。このように古くからの言い伝えや歴史的な遺物などからは、我々が何に関心を持ち、どのようにとらえていたのかを伺うことができます。このよきな貴重な先人の遺産を未来に伝えていくのも文化財保全の重要な役割かと思えます。



九重町の鳥・カッコウ

幸せになろうね



No.305

2021年度 第4回なるほど“ザ”人権講座

今年度最後となる第4回目の「なるほど“ザ”人権講座」が11月4日に開催されました。

第4回講座は、『人権学習は誰のため？～「寝た子は起こすな」でいいのか～』と題して、大分県人権・部落差別解消教育研究協議会事務局の足立哲範さんを講師にお迎えし講話をして頂きました。

受講生アンケートでは、以下のような記述がみられました。（一部抜粋）

- ・部落問題について常に学習していく必要があると思う。そのことを通じて人権について敏感な人間になりたいと思う。
- ・人とのかかわりの中で本当に自分の意識はその人のことを尊重してるのか、と考えるきっかけになりました。

としました。
・4回の講座を聞いてとても勉強になりました。被差別地域の人をかわいそうかと思ったことはありません。そう思う気持ちがあることが差別の始まりだと思う。
・今回で終了ですが、まだまだお話をききたいと思います。講座の回数をふやしてもらとうれしいです。子ども達にも同じようにきかせてあげたいです。

コロナ禍で昨年度は実施出来ず、本年度も講座が延期になるなど難しい中での開催でしたが講師の方や受講生の協力もあり、全4回の講座を終了することが出来ました。

本講座で聞き・知り・感じ、自分なりに色々なことを考えることで「気づき」が受講生一人一人の中で芽吹き、「人権のまちづくり」を進めていく仲間として今後のPTAや地域の中で活躍されることを願っています。

夜に開催される連続講座で参加の難しさはありますが、来年度も多くの方々（特に未受講の方々）の参加を心からお待ちしています。

紙面の都合上、詳細について掲載することができませんが、ご質問等がございましたら、社会教育課（☎76-3823）までお問い合わせください。

九重町教育委員会 社会教育課